

2013年7月度  
世界遺産検定 マイスター試験  
講評 および 学習方法

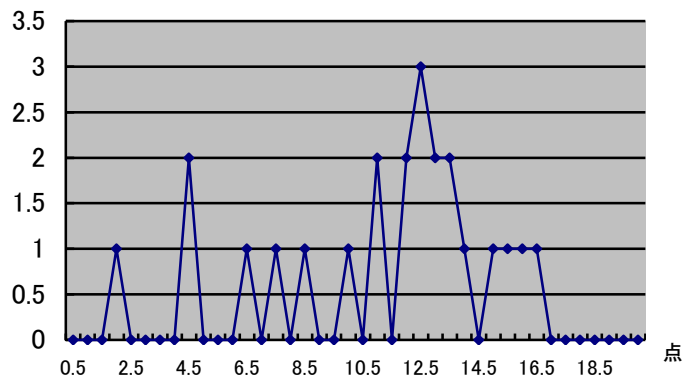
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

### 1. 実施概要

検 定 日：2013年7月7日（日）  
検 定 会 場：東京・大阪  
検 定 時 間：120分  
解 答 形 式：論述形式（記述）  
申 込 人 数：24名  
受 検 人 数：23名  
認 定 者 数：14名（認定率 60.9%）

### 2. 認定点と分布

認 定 点：12点（20点満点）  
最 高 点：16.5点  
最 低 点：2点  
分 布：



### 3. 問 題

- 1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. 危機遺産
  2. 奈良文書
  3. 世界遺産基金
- 2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。  
ユネスコ          顕著な普遍的価値          世界遺産基金          登録基準
- 3 2013年6月の世界遺産委員会にて登録された『富士山－信仰の対象と芸術の源泉』において、世界遺産保全のための入山料の徴収が議論されているが、その是非について、是非双方の視点を交えながら他の遺産と比較しつつ1,200字以内で論じなさい。

### 4. 総 評

基礎的な世界遺産に関する知識においては、各受検者にそれほど差はみられなかった。しかし3で出題された「富士山の入山料」における論述ではっきりと差が出たように感じる。論拠もなく主観的に意見を述べている解答も多く、入山料の是非について昨年の世界遺産条約40周年記念会合で出された「京都文書」などを踏まえつつ、論拠を示して論述した解答とは点数に差があった。身近な問題内容ただけに、感情的に解答したものもあり、残念であった。論述問題では論拠を示すことが、結論よりも重要視されることを認識する必要がある。文字数などは要件を満たしているものがほとんどで、よく準備されていたように感じた。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。その語句の最重要ポイントがどこにあるか見極める必要があり、「危機遺産」のような、様々な角度から説明可能なものは特に、適切な情報の取捨選択が必要であった。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句（危機遺産であれば「世界遺産条約に基づいている」や「世界遺産条約に基づく援助が要請されている」など）をはずさないようにしなければならない。学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむのが重要**である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。世界遺産条約には、顕著な普遍的価値をもつ遺産を保護すること、世界遺産委員会の設立や世界遺産基金の設立、遺産保護のための国内機関の設置など様々な内容が含まれており、書き方次第で内容に差が出ていた。登録基準を定めているのは「世界遺産条約履行のための作業指針」であることが書かれていない解答も少なからずあった。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。  
文字数指定のある場合は、最低でもその 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：論理的に世界遺産に関する自分の考えを論述する問題。入山料の是非双方の意見を論じなければならないのに、受検者自身の意見のみを一方向的に述べていたり、主張に対する論拠のないものも多く、「なぜそのように考えるのか」ということを意識して解答すべきである。また特定の国の文化を否定するような解答は問題外である。一方で、「京都文書」に触れながら富士山を含む地域コミュニティの機能や役割、持続可能な富士山の活用と地域コミュニティの発展などを論じている解答もあり、レベルの高さを感じた。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。このような論述問題の場合、**「正解」というものはない**。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。  
文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。